



ザ・シンポジウムみなと in 釧路 日本の食生活を支える 東北海道と釧路港

食料生産基地を背後に抱える釧路港の役割を考えようと、「ザ・シンポジウムみなと in 釧路」（北海道経済連合会、社団法人北海道商工会議所連合会などでつくる実行委員会主催）が、11月16日、釧路市の釧路プリンスホテルで開かれました。

ザ・シンポジウムみなとは、地域の発展の核となる港湾について、さまざまな立場から見た北海道港湾の将来の方向に関する意見を紹介していただき、道民の方々に港湾の重要性や必要性を理解していただくとともに、広く港湾をPRすることを目的として開催しています。

平成22年度は、国際バルク戦略港湾の指定に向けた取り組みを進めている釧路において、安全で安心な食の提供を図る食料供給基地としての東北海道への役割、安価かつ安定的な飼料供給の拠点となるために釧路港が果たすべき役割などについて、市民の方々とともに考えていくための契機とするものです。

最初に、釧路公立大学の小磯修二学長が「日本の食を支える東北海道の重要性と今後の釧路港が果たすべき役割」と題して基調講演をしました。続くパネルディスカッションでは「日本の食生活を支える東北海道と釧路港の未来」がテーマに。小磯学長をコーディネーターに、蝦名大也釧路市長、柴田達夫釧路総合振興局長、瀧澤義一釧路地区酪農対策協議会委員長、八高修JA全国農業協同組合連合会畜産生産部航運課長、金子ゆかり北海道建築士会釧路支部情報委員長の5人が語り合いました。

釧路市民や関係業界団体など570人もの参加がありました。



北海道開発局港湾空港部港湾計画課

基調講演

日本の食を支える東北北海道の重要性と今後の釧路港が果たすべき役割



小磯 修二 氏
釧路公立大学学長、
地域経済研究センター長

北海道開発庁などをへて1999年に釧路公立大へ。2008年から現職。内外の研究者、行政官、民間人を集め実践的に地域課題に応えるプロジェクトを展開している。

国際バルク戦略港湾指定にトライしている釧路港を、東北北海道（釧路、根室、十勝、オホーツク管内）という視点で見えてみることにします。東北北海道の農業産出額と漁業生産額はそれぞれ全道の5割を占めます。農産物の全国シェアは、牛乳35%、小麦44%などと、わが国の食料生産基地として、重要な役割を果たしています。道外との「地域収支」を見ると、道央は圧倒的な赤字ですが、釧根とオホーツクはわずかながら黒字で、乳製品などの出荷により、外から稼ぐ力があります。

農業など東北北海道の主要産業は、原材料や製品の輸送に釧路港を利用しています。酪農業で使う飼料原料のうち、全道の43%を釧路港で扱っています。そして牛乳の出荷も行われており、釧路港は酪農業の出入りの役割を担っています。

釧路港は将来どういう方向に持って行くべきなのか。今年6月に策定した「釧路港将来ビジョン」では、「わが国の食料自給を支える地域産業の競争力強化」と、食料自給率を高めていくというメッセージが込められています。これからはそれぞれの地域の個性を打ち出して競争力を高めなければならないと思います。

（去年の）政権交代で、港湾政策を所管する国土交通省は「選択と集中」を打ち出しています。国際コンテナ戦略港湾とバルクに重点投資することや、「民」の視点による経営を基調としています。しかし、こうした考えの背景には、国の競争力を高めるという意図があり、比較的集積がされた大都市に重点投資していくという流れになっています。しかし、地方という立

場と国全体の成長戦略とのバランスをどう取るのか、という視点が国土交通省の戦略では少し弱いと思います。事業仕分けでも、社会資本整備事業特別会計を廃止して一般会計化すべきとの結果が出ました。かつて国土交通省は、全国の均衡ある発展を目指しましたが、今日は「選択と集中」。地方にとって港湾整備を取り巻く状況は厳しいですが、しっかり向き合っていく必要があります。

では、地方の港湾経営はどうあるべきか。北海道の港湾管理者は、都府県が担っている本州と異なり、地元の市町村が主体で、財政基盤は弱い。広範な地域が釧路港から利益を得ていることを見てきましたが、管理のあり方について議論が望まれます。港湾整備をめぐる状況は厳しいですが、地域の皆さんが港の役割や将来像を自分の問題として考えてほしいと思います。

パネルディスカッション

日本の食生活を支える東北北海道と釧路港の未来

小磯 今日のテーマの「日本の食生活を支える東北北海道と釧路港の未来」について、現在の立場からお考えを聞かせてください。

柴田 バルク戦略港湾の指定は、東北北海道の酪農が発展する大きなきっかけになると思います。

3月に閣議決定された食料・農業・農村基本計画では、世界で食料が逼迫^{ひっぼく}していく中、食料自給率を41%から50%に引き上げる目標を置いています。それには低コストで生産拡大できる広大な土地が必要で、地球温暖化に対応できる北海道が適地です。

4月に宮崎県で口蹄疫が発生し、釧路管内の飼養頭数を大きく上回る29万頭が殺処分されました。宮崎の養豚業者が一部を北海道へ移す動きもあり、穀物飼料の消費拡大も予想されます。

瀧澤 釧路港が国際バルク戦略港湾に指定されれば、農業団体が一番恩恵を受けます。釧路管内の酪農家は10月末で1千戸を切りました。この1年で釧根地方合

わせて40戸の酪農家がやめました。トウモロコシや大豆を主原料とする配合飼料の輸入価格が高く、酪農経営を苦しめ続けてきました。年間を通して生産量、成分を安定させるには穀物飼料は欠かせません。釧路港が国際バルク戦略港湾に指定されれば、長く苦しめられてきた飼料のコスト軽減につながります。

八高 日本は十数年前は世界一の穀物輸入国で、アメリカから日本への海上運賃が世界指標でしたが、現在は中国に移りました。中国は主にパナマ運河を通らない南米から大豆を輸入しており、喫水13mの大型船に対応した港を整備しました。運賃も安く、港湾整備でも日本を追い越しました。パナマ運河が拡張されれば、北米から穀物を運ぶ船の喫水制限が15.2mまで拡大されます。そこを通過できる大型船をいかに利用できるかが国際競争力につながります。国際バルク戦略港湾でもう一度、世界をリードする港湾を作らないといけないと思います。

金子 釧路を支えてきた基幹産業の停滞を考えると、光が当たって伸びるのは酪農や畜産。東北海道ブランドとして何か付加価値があれば、多少高くても購買意欲がわきます。日本に安く飼料が入って生産コストが下がり、地域の安全な生産物を安価にいただけるのは消費者としても魅力的です。

西港は何か機会がないと見学できないような遠い存在。一人でも多くの市民が自分の力で釧路を盛り上げないといけないのに、知る機会が少なすぎます。

蝦名 国際バルク戦略港湾の指定は、釧路が日本に大きく寄与できる最大のチャンスと思って応募しました。世界で食料が不足する中で、北海道のポテンシャル（潜在可能性）を生かせる、一番北米に近い釧路港を活用すべきです。署名集めなど市民のさまざまな取り組みは大変力強い。12月8日に国に計画書を説明します。皆様の支援をお願いします。

釧路港の背後地には、一大食料供給基地の東北海道が広がっています。釧路港がさまざまな生活や経済を支えています。今まで培ってきた産業の厚みと先を見据えた役割を踏まえ、ハード、ソフトの両面で進めていきたいと思います。

小磯 今日の大きなテーマであるバルク戦略港湾の指定に向けて、意義や課題をお話させていただきます。

柴田 東北海道全体の物流拠点である釧路港を考えると、港湾管理者の釧路市は市町村の域を越えた役割を担っています。道としても背後地の産業、特に農業振興にこれまで以上に取り組みます。港に入った物がスムーズに生産地へ流れ、港を通じて製品が出荷されるよう、必要な道路網整備など周辺のインフラ整備にもしっかりと取り組みたいと思います。

瀧澤 鹿児島を含む南九州は今年の暑さで飼養頭数が急速に減少しました。国は数年前から産地を北に移動する施策をとっており、釧根でも和牛導入などに取り組んでいます。乳用牛が約64万頭いれば、雄が半分生まれます。肉用資源も活用し、釧路港のトウモロコシ取扱量の倍増に貢献したいと思います。



柴田 達夫 氏
北海道釧路総合振興局長
札幌市出身で1980年に道庁入庁。総務部総務課長、知事政策部北海道洞爺湖サミット推進局長、経済部観光局長などをへて2010年から現職。



瀧澤 義一 氏
釧路地区酪農対策協議会委員長
釧路管内鶴居村で酪農を営む。1989年に鶴居村農協理事。その後代表理事組合長。2006年には合併でできた釧路丹頂農協の代表理事専務に。現在、代表理事組合長を務める。02年から現職。



八高 修 氏
全国農業協同組合連合会畜産生産部航運課課長
1984年に全農に入会し、札幌支所などで飼料畜産関係の業務を担当した。2000年から米国の全農グレインで勤務。05年に全農本所畜産生産部へ。07年から現職。



金子 ゆかり 氏
社団法人北海道建築士会釧路支部情報委員長
釧路市に生まれ大学卒業後、(株)武田建築設計事務所に入社。96年から(有)金子設計事務所に入社し現職。ほか公職として釧路港おもてなし倶楽部の副委員長も務める。



蝦名 大也 氏
釧路市長
釧路市に生まれ1993年から釧路市議を2期務める。99年から道議として3期務めた後、2008年に釧路市長選に立候補し初当選した。

八高 国際バルク戦略港湾は、北海道、本州、九州と全国にバランス良く設置されるべきです。釧路港は北米に近く航路上にあり、大型船が入港できれば、物流的なメリットもあり使い勝手のよい港として発展する可能性があります。頑張ってもらいたいと思います。

金子 釧路港がもっと使われるためにも、バルク指定を弾みに陸路の整備が欠かせません。速く、コストが少なく物を運べれば、釧路の経済活性化にもつながります。

蝦名 釧路港がバルク指定の位置づけを得るのは大変大きなことです。世界では人口増で食料が足りなくなります。最後に「衣・住・食」の「食」がないと人間は生きていけません。釧路港が大きな役割を担えば、さまざまなビジネスチャンスにもつながると思います。

小磯 国際バルク戦略港湾は現在、釧路市が国に提案をしている段階ですが、これは地域への提案でもあります。地域として支える態勢がないと、いくら指定を受けても何にもなりません。港を地域の財産として考えることで、バルク港湾を受けた新しい発展があります。今日はありがとうございました。



国際バルク戦略港湾の選定に向けて

バルクとは

コンテナ輸送とは違い、バラ積み（バラ積み）の貨物を「バルク貨物」と呼びます。現在、世界の海上荷動き量でコンテナ貨物が占める割合は16%に過ぎず、残りは穀物、鉄鉱石、石炭などのドライバルク貨物が47%、原油、石油製品などの液体バルクが37%を占めています。

なぜバルク港湾なのか

急速に経済発展している中国を中心に世界の食料、資源の流通が活発化しています。それに伴い輸送船舶の大型化が進んでいます。一方、食料の6割、エネルギーの9割を海外に依存している日本は、そのような大型船舶を受け入れる港湾設備が十分に整っているとは言えません。物流のみならず関連産業全体の国際競争力を高める視点から「国際バルク戦略港湾」の必要性が説かれています。

釧路港の取り組み

釧路市は、北米に最も近く、背後地に酪農地帯が広がることなどを優位性に挙げ、今年国が公募した国際バルク戦略港湾へ応募しました。応募港湾総数は11港であり、釧路港は穀物部門に応募しました（同部門にはほか5港が応募）。

ザ・シンポジウムみなとパネル展

当日、シンポジウム会場となった釧路プリンスホテル2階ロビーでは、NPO法人北海道みなとの文化振興機構によるパネル展も同時開催されました。

